



森下仁丹

近畿大学  
KINDAI UNIVERSITY

## Press Release

令和8年（2026年）2月2日

森下仁丹株式会社  
学校法人近畿大学

報道関係者各位



森下仁丹 ×



近畿大学  
KINDAI UNIVERSITY

### 老舗ブランド120年の歩みを“未来世代”と語る

PLAT UMEKITAにて「仁丹」シリーズ120周年イベント開催

森下仁丹 × 近畿大学 × Meets Regional編集室によるトークセッションを実施

森下仁丹株式会社（本社：大阪府大阪市、代表取締役社長：森下雄司、以下「当社」）は、「仁丹」シリーズの誕生120周年を記念し、令和8年（2026年）2月7日（土）、PLAT UMEKITAにて近畿大学経営学部（大阪府東大阪市）商学科教授 井出文紀ゼミと共同で記念イベントを開催します。本イベントでは、「仁丹」シリーズ歴代の広告や仁丹ケースの展示をはじめ、「仁丹×近大」の産学連携から生まれた「仁丹」の販促アイデアの展示、来場者が自由に参加できる体験型コンテンツを実施します。

そしてメイン企画として、関西カルチャーを牽引する株式会社京阪神エルマガジン社（大阪府大阪市）のMeets Regional編集室と井出ゼミが一堂に会して特別トークセッションを実施します。老舗ブランド「仁丹」シリーズの歴史と未来像をテーマに熱く意見を交わします。



## ■120年というロングセラーの理由を“次の世代”と考える場

今回のイベントは、当社が井出ゼミの学生に向けて実施してきた「仁丹」を題材にした産学連携プログラムをきっかけに実現。長い歴史を持つブランドを若い世代がどのように捉え、どんな未来像を描くのか。次世代のリアルな視点を交えながら、時代を超えてブランドが歩んできた道のりを掘り下げます。



## ■ Meets Regional編集室も参加し、関西ならではの視点で語る

さらに関西の街・人・カルチャーを長年発信してきたMeets Regional編集室も登壇。“大阪発ブランドとしての「仁丹」”という切り口で、関西の生活者目線で捉えたブランド価値や存在感について語ります。企業・メディア・大学という三者三様の掛け合わせからどんな発見が生まれるか、トークイベントもお楽しみください。

### 【イベント概要】

イベント名：「仁丹」シリーズ誕生120周年企画

「昔から、ずっと、これからも展～その思いやりと技術は、時を超える。～」

日時 : 令和8年（2026年）2月7日（土）11時～18時

会場 : PLAT UMEKITA

大阪府大阪市北区大深町5番94号 グラングリーン大阪（うめきた公園内）

アクセス : JR大阪駅直結・すぐ

参加費 : 無料

イベント内容 : 1. 11時～18時／「仁丹」ギャラリー

- ・「仁丹」シリーズ歴代広告や仁丹ケースの展示
- ・体験型コンテンツの実施
- ・「仁丹×近大」産学連携プログラム関連展示

2. 14時30分～15時／「仁丹」トークセッション

“120年続くってどないなってるん？「仁丹」”

— 大阪発ロングセラーブランドのヒミツをみんなでひもとく —

登壇者 : Meets Regional編集室 松尾修平

近畿大学／経営学部商学科井出ゼミ 産学連携プログラムメンバー

森下仁丹／戦略企画グループ 永田梨沙

## ■森下仁丹株式会社

代表 : 代表取締役社長 森下雄司

創業 : 明治 26 年 (1893 年) 2 月

設立 : 昭和 11 年 (1936 年) 11 月

主な事業 : 医薬品、医薬部外品、医療機器ならびに食品等の製造および販売

業祖 森下博が「社会への奉仕」を信念とし、1893 年の創業来、人々の健康や豊かな暮らしの一助となる製品をご提供して参りました。当時、懐中の総合保健薬 (当時は赤大粒仁丹) として開発し、その後は口中清涼剤として親しまれる銀粒の「仁丹」(現在は医薬部外品 販売名: 仁丹 N)、その製造から着想を得て、独自に開発し事業領域を拡大しつつある「シームレスカプセル製剤技術」と、これまでの生薬研究の蓄積と独自技術の確立・育成を通して、幅広い領域で企業活動を行なっています。

## ■近畿大学経営学部商学科 井出ゼミ

教員 : 近畿大学経営学部商学科／大学院商学研究科 教授 井出文紀<博士（国際関係学）>

ゼミ生 : 18 名

専門 : 貿易論、アジア経済

主な取組 : 担当教員の井出は、戦前の森下仁丹の広告戦略、アジア展開に関する研究を行い、京都で活動する市民団体「京都仁丹樂會」のメンバーとして、森下仁丹が明治末から昭和初期に京都市内に設置した町名表示板の調査研究を行っており、森下仁丹の社員研修の講師も務めています。2025 年度は、5 月から 6 月にかけ京都仁丹樂會が行った京都市内の町名表示板の現存調査にゼミ生と参加し、11 月からは森下仁丹とのコラボ事業として、森下仁丹の歴史、事業内容、銀粒の「仁丹」のリブランディング活動を学んだ上で、学生をターゲットに銀粒の「仁丹」を SNS で紹介し認知度を高めるための広告企画案を作成、提案しました。